

事業所名 グループホーム町屋
運 営 推 進 会 議 開 催 報 告 書

開催日時 2024年 6月 25日(火)		
参 加 者		議 題
利用者	0名	① 行事報告
利用者家族	0名	② 行事予定
地域住民の代表者	1名	③ 身体拘束適正化検討委員会
市職員	0名	④ 質疑応答
地域包括支援センター職員	1名	⑤ 次回開催日
事業所	2名	
会 議 録		
①行事報告		
<p>◆ 母の日 ・ 5月14日 昼食時にホットプレートを使用して焼肉を行いました。焼肉の他に、おにぎり、サラダをお召し上がり頂きました。また、おやつ時には母の日会を行い、スタッフからメッセージカード、タオルハンカチをプレゼントさせて頂くと皆様笑顔で受け取ってくださいました。(2号館)</p> <p>・ 5月15日 昼食時に道の駅敷島に外食しました。利用者様には好きなメニューを選んで頂き、皆様とても美味しそうにお召し上がり頂きました。また、おやつ時には母の日会を行い、スタッフからメッセージカード、タオルハンカチをプレゼントさせて頂きました。(1号館)</p> <p>◆ 避難訓練 ・ 5月28日に1号館、5月29日に2号館が日中想定 の避難訓練を行いました。今回は、16時頃夕食の準備中に台所から火災が発生したという想定で行いました。スタッフは、消火器を使用した模擬消火、火災通報装置を实际使用し通報訓練を行いました。利用者様には、1号館は、施設内から雨天のため火元から遠い施設奥まで2号館は、施設内から東屋まで避難をして頂きました。1号館の避難時間は3分42秒で2号館は7分21秒で避難完了しました。</p>		

- ◆誕生日会
 - ・ 5月22日 2号館の利用者様の誕生日会を喫茶店にてお祝いをさせて頂きました。
 - ・ 6月13日 2号館の利用者様の誕生日会をファミリーレストランにてお祝いをさせて頂きました。
- ◆行事
 - ・ 6月21日 昼食時にホットプレートを使用して焼肉を行いました。焼肉の他に、おにぎり、サラダをお召し上がり頂きました。(1号館)
 - ・ 6月25日 おやつ時にたこ焼きパーティーをする予定です。(2号館)
- ◆感染対策訓練
 - ・ 今年度から、6月と12月の年2回感染対策訓練を行うことになりました。今回は、「嘔吐物の処理」について、処理方法を再度確認し、各職員に実践してもらいました。6月11日(2号館)、6月20日(1号館)

② 行事予定

- ・ 7月 七夕、土用の丑
- ・ 8月 夏祭り

③身体拘束適正化検討委員会

検討内容：「転落・すり落ちによる身体拘束を行わないための介護」

1.転落やすり落ち防止のため行ってしまいがちの身体拘束

イ.椅子や車いすに拘束する

- ・ 車いすに固定される事により、同じ姿勢を長時間強要される事は大きな苦痛が伴い、動きを制限される事により本来残されていた機能の低下ではなく、諦めという感情が生まれる。自身で立ち上がる事も出来ないため、除圧が上手く行えず、床ずれのリスクだけでなく骨粗しょう症が進行し骨折のリスクも増える。

- 立ち上がる事が出来ないため、筋力低下、バランス感覚や歩行能力も低下し、転倒・転落による打撲や骨折の危険性が大きくなる。
- 精神的ストレスがたまり、動き出したくなるので、それを理由にまた拘束をされてしまうと典型的な悪循環に陥る危険性がある。

※体を動かしにくい人でも長時間同じ姿勢で座り続ける事は苦痛を伴い、解消するために少しずつお尻を動かすなどでこまめに姿勢を整えるなどの対応が必要。

□.ベッド柵

- 閉じ込められている閉塞感や不安を感じ混乱の原因になる。柵を無理に乗り越えようとする転落を誘発し、脳挫傷などの大きなケガに発展する可能性が高くなる。

※転落する事を前提に可能性を減らすことと、転落してしまった時の被害を最小限に考えてベッド周りの整備を行う。転落をしてしまっても、ケガをする可能性を減らし、落ちやすい場所に柔らかい物を敷いておき、落下の衝撃を減らす。

2.まとめ

身体拘束をせず、転落・すり落ちを減らせるように町屋では、車椅子は移動時のみ使用しています。移動後は椅子またはソファに座ってもらいます。椅子またはソファの方が車椅子より座面が広く、深く座れるために、前のめりの転倒が少なくなります。また、すり落ちが起こる原因の一つとして、座っている時にお尻が痛くなり、痛くない様にお尻を動かした時にすり落ちてしまう事があります。対応として、低反発のクッションを使用する事があります。低反発のクッションは、お尻の痛みを和らげるだけでなく、体圧を軽減されるため褥瘡予防にもなります。これらの対応に合わせて見守りもしっかりと行っています。ベッド柵に関してですが、基本、頭側に柵を使用しています。移乗や立ち上がり、寝返りなどに使用しています。まれに、頭側と足側に柵を使用していますが、柵自体が小さく、真

ん中に出入り出来るスペースがしっかりと確保されているため身体拘束にはなりません。両側に柵を使用している理由は、両腕で両側の柵につかまっても立ち上がる補助として使用しています。また、ベッドから転落することが考えられる方は、布団に鈴をつけ、音が鳴ったらスタッフがすぐにつける、万が一転落した時に大きなケガに繋がらない様にマットを床に敷く事もあります。このような対応を行い、身体拘束を行わないケアに努めています。

④質疑応答

地域代表の方…身体拘束の中の対応策で、床にマットを敷くという事があるという事を知りました。以前、在宅の方でベッドから転落し大きなケガをしてしまった方がいるのでそういった対応があるのかと思いました。
→例えば、ベッド柵を四点柵にしてもベッドから降りられようとする方は降りようとされる事があります。その時に、柵を乗り越えたり、無理な体勢で降りようとされるので普通にベッドから降りるより大きなケガに繋がる事があります。マットを敷く事で大きなケガを予防して少なくする事が出来ますが、立ち上がり、歩行する時に素材が滑りやすい物だと転倒する事も考えられます。

地域包括様 …最近転落・すり落ち事故はありましたか？
→直近はないです。過去にはすり落ちた事故もあります。滑り止めマットを敷いて対応しています。一番大切なのは、座りっぱなしにならないようにする事で、身体を動かす時間を作ったりして対応しています。
…昔に比べベッドは変わりましたか？
→ベッドの機能自体は特に大きく変わっていません。ベッドの高さを低くしたりして転落リスクを軽減できるように対応しています。
…現在利用者は何人いますか？
→1号館9名、2号館9名で満床です。

⑤次回開催日

2024年8月27日（火） 14：00～